



国民の森林・国有林

森林ふれあい情報

平成23年 7月
第 19 号

中部森林管理局木曾森林環境保全ふれあいセンター
〒399-0001 長野県木曾郡木曾町福島5471-1
TEL:0264(22)2122 FAX:0264(21)3151
E-mail:kiso-fureai@rinya.maff.go.jp

自然再生の取組

城山の希少種等個体調査

城山史跡の森にはヤマシャクヤク、カザグルマなど県の指定希少野生植物があり、毎年個体の増減を調査しています。

今年もそれらの調査を実施しました。4月26日は希少種ではありませんが、城山国有林で群生が見られるカタクリの調査をしました。



春先の低温が影響して遅めの発芽

5月19日はヤマシャクヤクの調査を実施しました。ヤマシャクヤクは順調に生育していて花数も増えているようです。

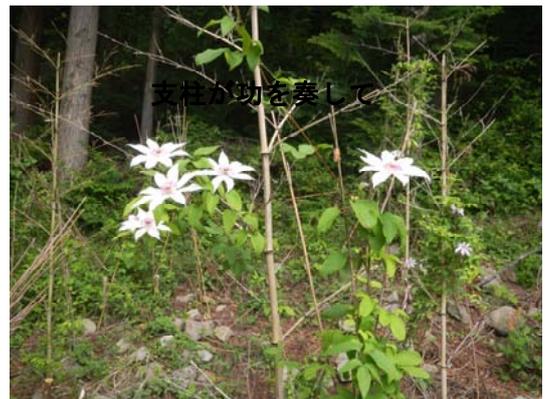


今年は開花と調査日がマッチして好結果



白い妖精

5月31日はカザグルマを調査しました。実生からの発芽が多く見られ、春先に竹で支柱をしたため順調な生育状況です。



支柱が功を奏して

6月23日はササユリの調査を実施したところ17株の着花が確認され、昨年イノシシによると思われる被害後の調査では10株が確認されたのみで、被害をまぬがれた株が成長したものと喜んでます。



被害をまぬがれ、きれいに咲いた花

未来世紀へつなく緑のバトン

緑のバトンは昭和59年9月に発生した長野県西部地震で崩壊した、御嶽山の土石流が押し流した、濁川の河床に緑を復活させる取組で26年間続いています。今年は、木曾川の水を名古屋市及び知多半島へ通水している「愛知用水」の通水50周年の記念行事に併せて実施されました。



中部森林管理局長祝辞

開会式に続き「未来世紀の森」に移動し、ナラやカエデの苗木800本がボランティア等により植樹されました。また「国民の森」の手入れも行われました。



除伐作業



ナラの植樹

普及の取組

城山史跡の森看板改設

城山史跡の森には、レク森として要所に案内看板や樹名板がありますが、それぞれ形式が異なるために統一したものにしようと、製作改設にとりかかっています。4月22日は城山史跡の森倶楽部により、看板の改設作業が行われ15名の出役により16基の看板改設が完了しました。

城山史跡の森は長野県立病院機構・木曾病院と木曾地域の自治体が進める”木曾路の森林“セラピードック地域の一つに選定されていることから、森林利用者の利便性に貢献するものと思います。



建て穴を掘る



改設後の樹名板

植物観察会参加

城山史跡の森倶楽部の会員は、町内外19団体及び40名の多彩なメンバーで構成されており、植物に詳しいOBの先生が講師となって毎年「史跡の森」の植物観察会を実施しています。

4月29日の観察会には当ふれあいセンターからも2名が参加して、今後の普及活動に活かそうと、春に

見られる植物の名前や特徴を勉強しました。



講師の丁寧な説明



ジュウニヒトエ



ヤブレカサ



ウバサイツ



ヒトリスカ



崩土さらい



レールを利用したクマ除け半鐘の整備



看板設置

森林ボランティア作業支援

支援・連携の取組

史跡の森歩道整備支援

4月3日は、城山史跡の森倶楽部による「史跡の森」歩道等の整備が行われました。この日は新所長も応援に駆けつけ総勢15人で、歩道脇に溜まった崩土さらい、クマ除け半鐘の整備、新調された樹名看板の改設など3組に分かれて作業を行いました。

この日は新年度最初の作業で、城山を管轄する森林官、ふれあいセンターからも2名が参加して倶楽部をサポートし、唐鍬を手に歩道整備に汗を流しました。

愛知県のNPO法人「みどりの挑戦者」は木曾郡4町村と協定を結び、町村有林の整備をしており、今年も2回にわたり作業が実施されました。

ふれあいセンターからは、該当町村からの要請に基づきヘルメット、ノコギリ等作業道具を貸出し、併せて技術指導を行いました。



木曾町 皮剥き防止テープ巻



木祖村
除伐作業

林業体験指導

上松町に所在する長野県上松技術専門校は、木工の技術を習得する単年度修学の職業訓練校ですが、林業への理解を深めるために、赤沢自然休養林近くの人工林で間伐作業を体験します。

5月13日は44名の訓練生が、木曾森林管理署の職員の指導のもとで間伐体験をしました。ふれあいセンターでも署員と連携を図り、伐倒の手順などの指導を行いました。



森林官による伐倒手順の説明



伐倒方向の確認



伐倒木の処理

防鹿柵設置支援

南信森林管理署管内の東俣国有林は、八ヶ岳中信高原国定公園内に所在し、国天然記念物の八島ヶ原湿原があります。この湿原には霧ヶ峰固有の植物で、絶滅危惧種のキリガミネヒオウギアヤメが自生していることから、保護林の七島八島湿原植物群落保護林にもなっています。

近年各地でニホンジカの個体数が増え、植物の食害や樹木への角研ぎなどの被害が拡大して深刻な問題になっています。八島ヶ原湿原もシカの進入により食害を受けています。

この被害に国有林や県、地元自治体、地権者でつくる霧ヶ峰自然環境保全協議会が、湿原の周囲約4キロメートルを柵で囲いシカの食害を防ごうと林野庁の予算措置のもとで昨年からの設置作業を行っています。

今年も6月17日から土日を含む7日間の予定で、昨年に続き残りの約1.6キロメートルの設置をしました。当ふれあいセンターでも自然保護の観点から所員全員が交代で設置を支援して24日に設置を完了しました。



七島八島湿原と柵の全景



初日は個人、団体、総勢78名の参集



フェンスの二段張り完成

行事予定のお知らせ

8月2日 教職員を対象とした森林・林業体験学習
研修会

8月4～5日 「学校林・遊々の森」全国子どもサミ
ット in 信州

9月10日 木曾川・森づくり in 赤沢

9月15日 木曾駒ヶ岳植生復元

9月30～10月1日 森林ボランティア・NPO
連携推進会議



国有林提供の支柱、フェンスなど資材運搬



支柱の打ち込み

編集後記

3月11日に発生した東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故は、多くの被災者と今も多くの行方不明者・避難者を数えており、心からお見舞い申し上げます。

私たちの仲間も被災したり、放射能汚染で森林整備に入れない山があると聞いています。そんな中でも海岸の松林が津波の進入を緩和させたことに、改めて森造りの大切さを実感するものです。

脱原発の気運の高まりで、CO₂の増加が懸念され、ますます森林整備の必要性が注目されます。